

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会  
第 56 回 基盤応用・廃炉技術専門部会 議事録

1. 日 時：2022年11月10日（木）9:30～10:50

2. 会議方式：Web 会議

3. 出席者：（敬称略）

（出席委員）石川部会長，山路副部会長，湊幹事，石川(智)，大塚，奥野，北島，佐田，  
田中(健)，田中(正)，明神，山本，吉田，渡辺（14名）

（委員候補者）黒川 登（三菱重工業），近藤 直樹（三菱総合研究所），  
坂下 嘉章（東芝エネルギーシステムズ）（3名）

（説明者）【放出源の有効高さ評価分科会】渡辺幹事  
【放射線遮蔽分科会】坂本主査（のべ2名）

（事務局）大沼，正岡，牧野，平野（4名）

4. 配付資料：（議事録末尾に一覧を掲載）

5. 議事内容

事務局から開始時，委員 14 名中，14 名が出席しており，成立に必要な定足数（10 名以上）を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC56-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事（ATC56-2）

事務局からATC56-2に基づき，専門部会の人事について以下の提案があり，審議の結果，専門部会委員の選任等が決議され，委員退任等が確認された。

【専門部会】

◆決議事項

(1) 委員選任

黒川 登	三菱重工業
近藤 直樹	三菱総合研究所
坂下 嘉章	東芝エネルギーシステムズ

(2) 委員再任

石川 顕一	東京大学	2023.02～2025.01
北島 庄一	電力中央研究所	2023.03～2025.02

◇確認事項

(1) 委員退任

萩原 剛	東芝エネルギーシステムズ	2022.10.31
日比 宏基	三菱 FBR システムズ	2022.10.31
松本 昌昭	エム・アール・アイ リサーチアソシエイツ	2022.10.31

【分科会】

4 分科会とも変更無し。

(3) 【報告・審議】 (ATC56-3-1～ATC56-3-4)

“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：20XX” 標準原案に関する標準委員会決議投票の結果及び受け付けた意見への対応について

(担当：事務局，放出源の有効高さ評価分科会 渡辺幹事)

事務局から ATC56-3-1 に基づき，題記に関する決議投票の結果，可決され，賛成で 3 名の委員から意見があったことが報告された。引き続き，放出源の有効高さ評価分科会 渡辺幹事から ATC56-3-2～ATC56-3-4 に基づき，意見対応について説明があり，審議の結果，この内容で次の標準委員会に報告することが決議された。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：風洞実験とシミュレーション結果との相関図で，下側に外れているが。

A：風洞実験で濃度測定を行う際には測器による検出限界等がある一方，数値モデルでは小さな値まで数値を求めることができる。そのため，風洞実験の値は検出限界のところから頭打ちになり，そのところから急激に下に落ちていくように見えてしまう相関となる。ただし，FAC2 の判定ではこの部分も含めて相関を判定しており，ご質問にあったような特異点として排除等は行っておらず，相関としては成立しているものである。

C：理解した。

(4) 【報告・審議】 (ATC56-4-1～ATC56-4-2)

“ $\gamma$ 線ビルドアップ係数：2013” 正誤表と英語標準について

(担当：放射線遮蔽分科会 坂本主査)

放射線遮蔽分科会 坂本主査から ATC56-4-1～ATC56-4-2 に基づき，題記標準（和文版）の正誤表，並びに同標準の英文版について説明があり，審議の結果，正誤表についてはこの内容にて次の標準委員会に報告することが決議され，また英文版については前回（第 55 回）の専門部会における条件（和文版の正誤を英文版に反映すること）が反映されたことが確認され，30 日間の意見募集に移行することとなった。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：現状のデータを使用してもウランの 0.6MeV 及びタングステンの 0.15MeV の照射線量に対する  $\gamma$ 線ビルドアップ係数には大きな差異がないということで良いか？

A：ウランのデータに関しては前後のデータから内挿で算出できるし，GP 近似式のパラメータ自身は収録されているので算出できる。また，タングステンのデータに関しては GP 近似式で算出する際の直接的なパラメータではない。

Q：英語版標準の番号は日本語版の番号を使用するのか、それとも英語標準制定時の番号・年号を使用するのか？

A：日本語版での番号を使用している。今回の場合，2013 である。

(5) 【報告】 (ATC56-5)

標準策定 5 年計画の更新について

(担当：基盤応用・廃炉技術専門部会 湊幹事)

湊幹事から ATC56-5 に基づき，標準策定 5 年計画の 2023 年版 についての作成依頼があった。

主な質疑，コメント等は以下のとおり。

Q：5 年計画には制定予定だけでなく，発行予定も記載するが，制定と発行の定義を再確認したい。

A：制定は公衆審査終了後に標準委員会にて最終的に内容が承認された時点であり，発行は制定後に校正，印刷し，販売を開始する時点である。（通常制定後 1～2 か月で発行となるが，5 年計画の作成依頼では制定後 2 か月後に発行予定をマーキングするよう依頼している。転載許諾対応で発行が遅れることもあるが，最近は公衆審査前に転載許諾を取得するようにしている。）

(6) 【報告】 (ATC56-6)

倫理教育の実績について

(担当：基盤応用・廃炉技術専門部会 湊幹事)

湊幹事から ATC56-6 に基づき、倫理教育の実施実績について報告があった。

主な質疑、コメント等は以下のとおり。

C：放射線遮蔽分科会、シミュレーション分科会も実施済みであり、資料に反映する。

(7) 【報告】 (ATC56-7)

分科会活動状況について

(担当：各分科会代表者等の関係者)

各分科会から ATC56-7 に基づき、活動状況が説明された。

廃止措置分科会から、資料に記載の内容以降の状況として、次の補足説明があった。

「発電用原子炉施設の廃止措置計画における安全評価基準：20XX」に対して、標準委員会における標準原案に関する決議投票では、投票者全員賛成でコメントに対する回答案が了承されており、誤字脱字のチェックと、引用文献転載許諾手続きの完了を条件として2か月間の公衆審査に移行する取り決めになっていた。廃止措置分科会で誤字脱字のチェックした結果いくつかのエディトリアルな変更があったが、第79回廃止措置分科会でこれらを確認し、また、転載許諾手続きも完了したため、公衆審査移行の条件が整ったことを専門部会三役及び標準委員会三役へ連絡し、本日委員長の下承が得られたことから、当該標準案「安全評価基準」は公衆審査に移行することとなった。

特に質疑、コメント等は無かった。

6 その他

(1) 春の年会において、グレーデッドアプローチを適用した廃止措置の企画セッションを実施予定であり、標準委員会山本委員長の了解を得ている。ご協力をお願いする。

(2) 今後の予定

今回は、2023年2月9日(木)9:30から開催で決定した。

【配付資料】

ATC56-0	第56回基盤応用・廃炉技術専門部会議事次第
ATC56-1	第55回基盤応用・廃炉技術専門部会議事録(案)
ATC56-2	人事について
ATC56-3-1	“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：20XX”標準原案に関する決議投票【SC22-06】の結果について
ATC56-3-2	“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：20XX”標準原案に関する標準委員会決議投票の結果及び受け付けた意見への対応について
ATC56-3-3	“発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準：20XX”(標準原案完本)
ATC56-3-4	発電用原子炉施設の安全解析における放出源の有効高さを求めるための数値モデル計算実施基準 標準委員会本報告決議投票における意見対応 修正前後比較表
ATC56-4-1	誤記チェックの結果について “ $\gamma$ 線ビルドアップ係数：2013”
ATC56-4-2	AESJ-SC-A005:2010 “AESJ Standards $\gamma$ -Ray Buildup Factors:2010” 英訳版(正誤表反映版)

- ATC56-5 基盤応用・廃炉技術専門部会 標準策定5か年計画（2023年度版）（案）  
ATC56-6 倫理教育の実績について  
ATC56-7 分科会の活動状況について

参考資料

- ATC56-参考1 基盤応用・廃炉技術専門部会委員名簿  
ATC56-参考2 基盤応用・廃炉技術専門部会出席実績

以上